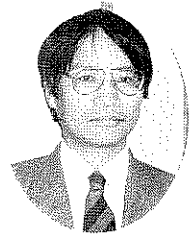


## ●●●●●●●●●●●●●●●● 卷 頭 言 ●●●●●●●●●●●●●●●●

### 日本表面科学会の足腰の強化を

大 島 忠 平



1991～1992年の2年間、学会誌“表面科学”の編集委員長として編集業務に携わりました。当時は事務体制が軟弱であり、私に課せられた最大の仕事は編集体制を立て直すことでした。この間に事務局の変更によって会員の皆様にもたいへんご迷惑をおかけしたことも多々ございました。この場を借りてお詫び申し上げます。編集委員、理事の先生方の支援を受けまして、事務体制が整い現在では編集業務が滞ることもほとんどなくなっております。

現在、会誌出版には多大の経費が支出されております。1号あたり印刷費に約100万円、これに編集委員会、通信、執筆謝礼などの諸経費を含めると、1号あたり約200万円、したがって年間10号発刊で約2000万円の費用がかかっております。この金額は決して、放漫経営のために発生した金額でなく、理事の先生方の真剣な討論、編集事務の労苦、編集委員の方々のボランティア活動に支えられて、維持いたしている最低のレベルです。もちろん、事務の方々の働く環境も大きな学会のように決して恵まれておりません。

一方年間の会費収入は約1000万円程度で、編集業務で支出している約半分は広告や学会活動からの収入に頼っているのが現状であります。昨今の厳しい経済状態では、会費以外の学会の収入が減少いたし、非常に不安定な状態になりつつあります。このため昨年、学会誌の別刷り料金を値上げさせていただきました。

表面科学が21世紀のキーサイエンスになることは、疑う余地のないものように思えます。つぎの10年間の学問の進展や科学技術の発展に、日本表面科学会が大きな寄与をするためには学会の足腰を強化する必要があります。特に財政的基盤を強固にすることは不可欠であります。今後会費値上げを含めた新しい学会の事業計画案がでてくるものと思われそうですが、会員の皆様もこの点にご留意していただき、日本表面学会の将来に対する議論に積極的に参加していただきたいと存じます。

(早稲田大学理工学部)